

## 本校の活動・実践内容(令和 2 年度まで)

### (1)朝読書活動

- ・毎朝20分間、自分が準備した図書を読む(1・2年のみ)。  
「朝自習」として、教育課程に位置づけ、年間を通して実施。
- ・平成8年ごろ開始したが、取り組み方については、年度ごと、学年ごとに変容が見られる。



### (2)学校図書館の環境整備及び司書によるイベント等の実施

#### ①図書の配置の工夫

- ・書架を整理し、面出し(本の表紙が見えるように立てて置く)等を行い、本の情報が視覚的に入ってくるように仕組み、本に興味や親しみをもたせるように工夫した。このような工夫のためには、ある程度、書架や机などの配置に余裕が必要で、そのため、不要な図書の除籍を進めた。



- ・書架の上段に図書とともに作者紹介、書評などを掲示。作家を比較しながら読むこと、同作家の図書を比較しながら読むこと、同じジャンルやシリーズものを読むことを推進し、読書量を増やすことをねらう取り組み。



#### ②館内デザイン

- ・書架は NDC の番号順に図書館を囲むように配置している(大型の図書が多い美術に関しては例外)。

- ・書架に囲まれるように、机が4×2列=8卓配置されている。また、それぞれの机に6脚の椅子が配置されている(コロナ禍においては使用できる椅子が制限されている)。

- ・空間に余裕をもたせることで、利用者の移動を容易にし、椅子に腰かけていても図書館のほぼ全体が見えるように工夫されている。



### ③企画展示

季節や行事に関連する本等を展示するなど、環境整備に努めている。

#### 【季節や行事に関する企画展示例】

- ・図書委員がおススメする本 21 冊 ※「子ども読書週間」に合わせた企画
- ・宇宙探検
- ・FIFA ワールドカップブラジル特集 ※スポーツイベントに合わせた企画 同様のもの多数あり
- ・演劇の本特集 ※文化祭に合わせた企画
- ・クリスマス特集

#### 【上記以外の企画展示例】

- ・ビブリオセラピー(読書療法)
- ・映画パンフレットを使った展示
- ・POP や新聞の切り抜き
- ・その他、講演会の講師やゲストティーチャーに関連する企画展示



本校教育講演会の講師 APU 学長出口治明氏とそのとき、学校図書館で行った企画展示

### ④「子どもの読書週間」及び「秋の読書週間」におけるイベント

年2回の読書週間に合わせて、図書館内でイベントを行う。毎年少しずつスタイルを変え、実施している。令和元年及び2年のものは以下のようなものである。

#### 【スタンプラリー】

- ・NDC の1～9分類全ての分類の図書を読破した生徒に手作りのしおりをプレゼントするというイベント。9分類やその他、自分の興味のあるものしか読んでこなかった1年生が、特に関心を持ったイベントである。元年秋は27名がイベントを達成し、2年秋は14名が達成した。

#### 【絵本展】

- ・一般的な絵本だけでなく、いわゆる「飛び出す絵本」のような芸術性の高い本を展示し、絵本の魅力を再発見させるイベント。中学校の図書館にはないジャンルであるので、県立図書館や司書個人の蔵書を展示した。

#### 【貸出冊数無制限】

- ・通常は貸出冊数に制限があるが、この期間のみ、貸出冊数を無制限にするイベント。読書好きな生徒は普段よりも多めに借りることができるが、一人で大量の本を独占するような生徒もおらず、皆自分のペースで読める分だけを借りる傾向にあった。

#### 【本のお楽しみ袋】

- ・図書2冊を一つにラッピングし、中に何が入っているのかを伝えずに貸出を行う。好きなジャンル以外の本も読ませることができ、生徒からも「普段自分が読まないような本を手にとることができ、本の魅力の再発見につながった」という感想が得られた。

### ⑤その他のイベント

#### 【本の福袋】

- ・上記「本のお楽しみ袋」と同様のイベント。1月に行う。

#### 【本のポップ講座】

- ・出版社主催のポップコンテストに応募したい生徒向けのイベント。

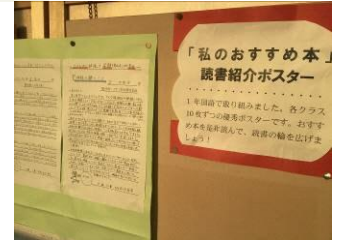
### ⑥読書郵便

令和2年6月～9月の学校図書館の利用時間制限期間中は読書郵便(リクエストがあった本をクラスまで届ける)を実施し、図書館廊下には返却ポストを設置した。



### ⑧各教科の成果物の展示

各教科の成果物を図書館前に掲示し、本への興味を喚起した。



### ⑨図書館だよりの発行

毎月1回発行。新着図書や企画展示のお知らせを行った。

大分大学附属立川中学校図書館 2020年 7月号

## 図書便り

もうすぐ夏休み! その前に...

7月27日(月)より 夏休み用貸出を開始!

16:10開館 貸出終了 18:00

学年別図書館利用日

3年生	7/27(月)、7/31(金)
2年生	7/28(火)、8/3(月)
1年生	7/29(水)、8/4(火)

新刊 pick Up 『もしものせかい』

展示コーナー 成長物語&本で学ぶ!

1位 『時給三〇〇円の死神』

2位 『リアルフェイス』

3位 『5分後に書かれた結末』

大分大学附属立川中学校図書館 2020年 7月号

## 図書便り

暑い夏を爽やかに

新刊 pick Up 『青春サプリ。』

友情!

貸出プラス券 フォトプレゼント!

お得意 1冊 + 3冊券

### (3)各教科等における図書の利活用の推進

- ・各教科等における主体的な学びを実現するため、意図的・計画的に図書や新聞の利活用を推進した。
- ・各教科で付けたい力を実現するために、調べ学習等を図ってきたが、図書の利活用を推進する中で、読書活動を下支えすることにつながった。以下に例を示す。

#### ①国語科: 言語活動の媒体としての図書の利用/調べ学習の材料の一つとしての図書の利用

##### 【単元「附中生が選ぶ絵本大賞」】

・物語の魅力や、根拠を明確にして伝えるという言語活動。絵本を県立図書館の団体貸し出しを利用して借りる。これを対象にして、物語の分析を行い、その結果をプレゼンテーションするという活動を行った。



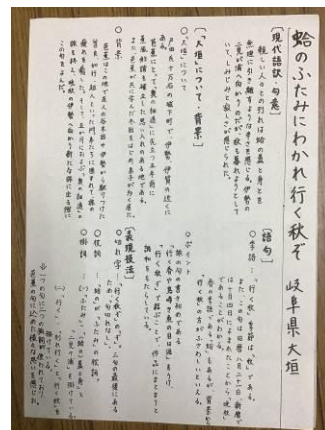
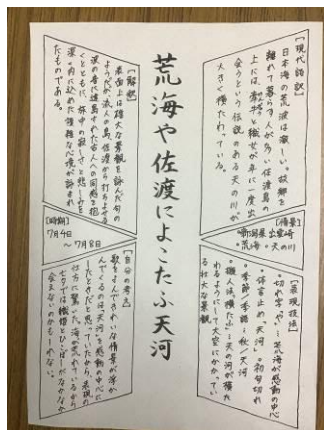
##### 【単元「俳句の鑑賞文を書く」】

・自分の好きな俳句について調べ、その鑑賞文を書くという言語活動。県立図書館の団体貸し出しを利用し、一人一冊以上の資料からその俳句に関する情報を収集し、鑑賞文を書かせた。



【単元「芭蕉の思いに迫る」】

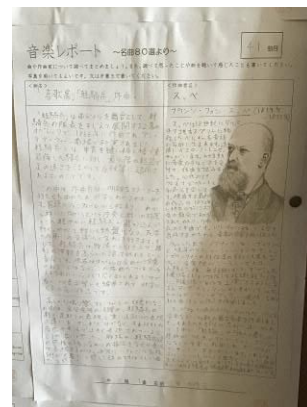
・自分の好きな「奥の細道」の句について調べ、なぜ、共感するに至ったのかを分析する言語活動。県立図書館の団体貸し出しを利用し、一人一冊以上の資料からレポートを書かせた。



②音楽科:調べ学習の材料の一つとしての図書の利用

【レポート作成 名曲80選】

・音楽の鑑賞領域におけるレポートの作成。本校音楽科では80曲の鑑賞を行う。授業ではすべてを扱うことが不可能であるので、授業で扱わない曲と作曲家について、レポート作成を行わせる。レポート作成のための資料収集は、ウェブでも可としているが、学校図書館や県立図書館の利用も推奨している。



③技術家庭科(家庭分野):保育実習における絵本の読み聞かせ

【絵本読み聞かせ】

・本校は3年時に同じ敷地内にある附属幼稚園で2時間保育実習を行う(令和2年度は感染症対策のため未実施)。その中で絵本の読み聞かせも行うが、事前準備として、選書の仕方、読み聞かせの基本を学ぶ。そのような活動を通し、成長過程における本の重要性等を学ぶことができる。



④総合的な学習の時間:課題解決のための調べ学習の推進

【2年生】

・学級ごとに探究テーマを決め、それに迫るために県立図書館のスクールサービスデイを利用し、調べ学習を行う。以下、学級ごとのテーマ。  
 A組 これからの日本の変化～必要な力・将来の力～  
 B組 これからの社会に必要な能力(人材)とは何か？  
 C組 私たちはどう生きるか～変わっていく“せかい”で求められる力とは～  
 D組 これからの働き方



### 【3年生「大分の魅力に迫る」】

・大分県の魅力について、新聞というメディアを通して考える活動。大分合同新聞社からゲストティーチャーを招聘し、新聞をどのように活用するのかについてレクチャーをうける。その後、4人を基本とする各グループで一枚のレポートを「切り抜き新聞」としてまとめ、それを出品した。



## 活動体制

### (1)校内体制

- ①教職員…学校司書、司書教諭が協働で図書館を運営にあたる。また、各教科担当教員を中心に授業での積極的な図書館の活用を進める。
- ②図書委員…図書貸出返却業務の補助、学校図書館主催イベントの運営補助、百人一首大会の企画運営を担当。
- ③公共図書館との連携…調べ学習推進のため、県立図書館の団体貸出(年間5回程度)及びスクールサービスデーを利用。
- ④その他…ゲストティーチャー(外部講師)の招聘により、生徒の情報収集能力の向上を図る。

## 活動の効果

### (1)貸出冊数の増加

学校図書館の貸出冊数は10年間で2倍以上になっている。

貸出冊数推移	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
総数	4218	3471	3487	4356	4779	7373	8523	6412	6948	7760	8710
一人当たり	8	7	7	9	10	15	17	13	14	16	18

### (2)読書に対する意欲の増進

- ①「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に、「10分より少ない」と回答する生徒は、25.7%で全国値より13.8ポイント良好である。

※1

- ②「余暇時間に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問に、「週1回以上」と回答する生徒は13.5%と全国値より5.1ポイント良好な結果である。※2

- ③「読書は好きですか」の質問に肯定的回答の生徒は86.5%と全国値よりも18.4ポイント良好な結果である。※3

※1～3…平成31年度「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙調査結果による

## その他特記事項

- (1)学校図書館図書標準は達成されていない。これは、平成25・26年度に図書館利用のしやすさを向上させるために、不要な図書を大量に除籍したためである。蔵書数は減少しているが、貸出冊数そのものは増加している。
- (2)平成28年度からは図書購入費が2倍になり、新規購入と不要図書の除籍を合わせて行っているところである。
- (3)上記にもあるように総合的な学習の調べ学習のために県立図書館のスクールサービスデーを利用したり、新聞から情報を収集できるようにさせるために、新聞社からゲストティーチャーを招聘したりと学校外のリソースの活用を推進している。